

第10回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成21年11月30日(月)13:30～17:00

項目	発言者	意見	内容	対応
<寺川水系河川整備計画(案)>				
河道	A委員	多自然川づくりでの水際部の工夫について	洪水規模の小さな寺川のような河川では、護岸前面に間伐材等を使用した木杭を配置することで多様な環境を作り出すことができる。	親水空間整備等において検討してまいりたい。
<小矢部川下流圏域河川整備計画の変更(案)>				
管理	B委員	跡地利用について	合流点を100m上流へ変更した場合の現川の跡地利用をどのように考えているか。	今後有効な利用方法を検討してまいりたい。
<上庄川水系河川整備基本方針(案)>				
環境	A委員	本文の表現について	(1)「流域の概要」の地質に関して、上流が地すべり地帯であることが分かるよう表現を工夫してほしい。 (2)「河川の総合的な保全と利用に関する基本方針」では、現状に対する評価を追記してほしい。	ご指摘を踏まえ、地質及び現在の自然環境について追記したい。
治水	C委員	洪水調節施設について	洪水調節施設とは、どのようなことを考えているのか。	河口部は氷見市街を貫流しているため、河道拡幅のみによる改修は非常に困難であると考えており、河道拡幅・河道浚渫・洪水調節施設(遊水地)等を組み合わせ、バランスの取れる治水対策を検討しているところである。
		既存ため池について	流域内にある既存のため池の利活用を考えているか。	既存のため池は河川管理施設ではないため、現在のところ、その利活用は考えていない。今後、必要に応じて検討してまいりたい。
	D委員	治水対策事例について	共通の課題を抱えている他県の事例を教えてください。	次回に提示いたしたい。
<共通事項>				
文化財	E委員	文化財保全について	埋蔵文化財と隣接している箇所については、地元の教育委員会と事前に協議してほしい。	市町村の教育委員会と連携して対応してまいりたい。